

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	エグザイル ノイマン		ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	探偵兼情報屋、人呼んで交渉人
	オプショナル ブラム=ストーカー		年齢		性別	不明
覚醒	忘却	衝動	解放	初期侵食率	43	%
出自	使命	経験	放浪者	邂逅	ビジネス	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	49
肉体	2	0	0			2	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	5
精神	3	1	0	1		5	戦闘移動	10
社会	2	0	0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	1	
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
骨の剣	白兵	2r-1	6	lv+5		
ジュラルミンシールド	白兵	2r-3	6	2		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
ブーストアーマー		15		-2	肉体感覚精神の判定を+2d メイン後侵食値+2

所持品		合計装甲:		合計回避:	
情報収集チーム		15	0		

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
D秘密兵器	P	N		
S無貌の邪神	P 傾倒	N 侮蔑		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P:	2
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
異形の刻印	5	+3	常時					
効果:	HP+lv*4 基本侵食+3							
ヒューマンズネイバー	1	+5	常時					
効果:	衝動判定を+lv d 基本侵食+5							
オリジンレジェンド	5	2	マイナー		自身			
効果:	精神の達成値を+lv*2							
骨の剣	3	3	マイナー		自身			
効果:	素手のデータ変更							
コンセントレイト	3	2	メジャー					
効果:	c-lv 下限7							
コントロールソート	1	2	メジャー			白兵		
効果:	判定を精神で代用							
伸縮腕	2	2	メジャー	視界	単体	白兵		
効果:	射程を視界に変更 判定を-(3-lv)d							
渴きの主	2	4	メジャー	至近	単体	白兵		
効果:	装甲貫通 命中時lv*4回復 素手のみ							
生き字引	1	2	メジャー			意志		
効果:	情報を意志で判定+lv+d							
崩れずの群れ	1	2	オート	至近				
効果:	カバリング							
スプリングシールド	2	2	オート					
効果:	ガード値を+10 シーンlv回復							
異世界の因子	1	5	オート				80	
効果:	シーン内で使用されたエフェクトをlv1で取得する、シナリオ1							
貪欲なる拳	2	3	メジャー		単体	白兵		
効果:	判定ダイスlv+1							

あらゆるものに姿を変えているため本来の年齢性別は誰も知らない。
 本人ですらもう覚えていないのかもしれない。
 情報屋兼探偵として活動しておりその仕事幅は多岐にわたる。事件現場に直接赴き解決する場合、後日談から推理する安楽椅子探偵、さらには事件を未然に防ぐ交渉人、必要に応じて様々な行動をとる。
 オーヴァードとしてUGNには比較的協力的な姿勢を見せるがそこまでの拘りはなく、正直言ってFHでも構わないと思っている、先に自身に接触してきたのがUGNであったというだけなのだ。

仕事用の顔として銀髪の女子高生風な姿を取る。
 口調は若い青年のそれで仰々しく不遜。
 あらゆる方面へのコネクションがありそのため様々な装備を入手している、自身のレネゲイドを強化する装甲が気に入っているようだ。
 エグザイルの変身能力とノイマンの観察記憶能力によって完璧な変身を行う。

「やあ、僕だ。この事件全て詳らかに語ってませようか」
 「いやはや、恐れ知らずとはこのことだ、無知は罪だが時に羨ましくも思える。知らないということは人を死に近づけるが同時に一線を越えることに抵抗を持たなくて済むのだから」

